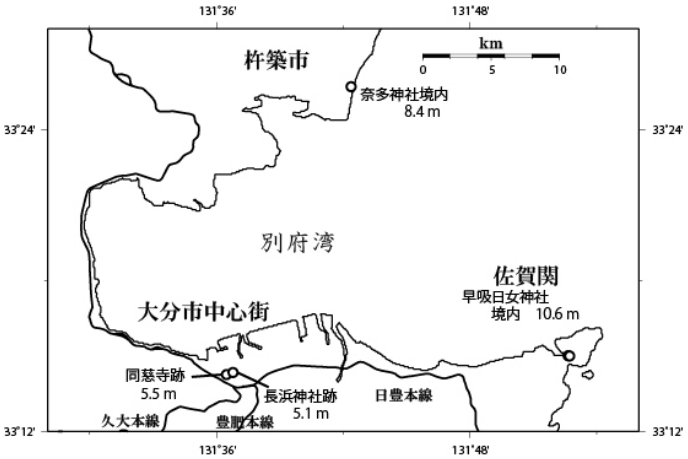
Japan Geoscience Union Meeting 2013
(May 19-24 2013 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2013. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HDS26-14 会場:301B 時間:5 月 21 日 11:15-11:30

大分県における1596年豊後地震の津波痕跡に関する現地調査報告
Field Survey of the Beppu Bay Tsunami accompanied by the 1596 Keicho Bungo Earthquake

都司 嘉宣 [1*], 松岡　祐也 [2], 行谷　佑一 [3], 今井健太郎 [4], 岩瀬　浩之 [5], 原　信彦 [5], 今村　文彦 [4]
Yoshinobu Tsuji[1*], Yuya Matsuoka[2], Yuichi Namegaya[3], Kentaro Imai[4], Hiroyuki Iwase[5], Nobuhiko Hara[5], Fumihiko Imamura[4]

[1] 深田地質研究所, [2] 仙台市博物館, [3] 産総研, [4] 東北大学災害科学国際研究所, [5] 株・エコー
[1]Fukada Geolog. Inst., [2]Sendai City Museum, [3]AIST, [4]IRIDeS, [5]Echo Co. Ltd.

慶長元年閏７月 12 日（1596 年 9 月 4 日），別府湾で発生した慶長豊後地震（M6.9 と推定されている（羽鳥，1985））は，別府湾内の沿岸部で津波の被害をもたらした．本稿は，羽鳥（1985）による大分県内（図）における 1596 年慶長豊後地震による津波痕跡地点を対象に，より測定精度の高い RTK-GPS を利用した地盤高の再測量を実施し津波痕跡値の精度向上を検討したものである.『佐賀関史』（M-597，M は武者史料）には，大分市佐賀関の関神社について,「慶長丙申年閏七月十二日地震，海嘯大に至り関神社の鳥居倒れ，海水社殿を浸し崖岸は崩壊し，家屋は倒壊し（後略）」とある．関神社は，現在の早吸日女神社である．宮司によれば，慶長の津波で海岸に一番近い鳥居が流され，海水が拝殿まで浸したと言う．建物は宝暦 13 年（1763）に建てられたが，社殿の位置は往古から変わっていない．基礎土台前の地盤高は T.P.+8.61 m となる．社殿床面が浸されたことから津波浸水深を 2m と仮定すると，津波高は T.P.+10.6 m と推定できる．大分市府内町 3 丁目 4 番地は現在大分中央郵便局の敷地であるが，ここには当時同慈寺という寺院があった.『雉城雑誌』(S-18，S は新収日本地震史料第 1 巻の略) には,「（神護山同慈寺址）（前略）慶長元年閏七月十二日水害當寺境内中の天満宮流失所在を知らず」とあり,『豊府紀聞』（S-13）には,「（前略）神護山同慈寺之薬師堂一宇毅然独存之．然其仏殿大傾斜．同境内菅神廟社不知流行方」とある．大分中央郵便局裏の地盤高を測量すると T.P.+3.53 m となった．天満宮の社殿が流れた事から津波浸水深を 2m と仮定すると，津波高は T.P.+5.5 m と推定できる．大分市大手町 3 丁目 1 番地にある現在の大分警察本部の庁舎の付近に，当時長浜明神社があった.『豊府紀聞』(S-13) によれば,「（前略）長浜明神之神殿流来于春日山.」とある．大分警察本部前の地盤高を測量すると T.P.+3.13 m となった．津波で流された事から津波浸水深を 2 m と仮定すると，津波高は T.P.+5.1 m と推定できる．別府湾の北岸，杵築（きつき）市奈多の海岸に，奈多八幡神社がある.『杵築郷土史 全』（S-1）によれば,「八幡奈多宮の神殿神庫社殿悉く海嘯のために流さる.」とあり,『勝山歴代・豊城世譜』では,「奈多宮本社拝殿楼門鳥居残なく沈没す」とある．境内の地盤高を測量すると T.P.+6.36 m となった．社殿が流れた事から津波浸水深を 2 m と仮定すると，津波高は T.P.+8.4 m と推定できる．以上によって，図の津波高さの分布図を得る．本調査は,（独）原子力安全基盤機構からの委託業務「平成 22～23 年度 津波痕跡データベースの高度化－痕跡データの信頼度の評価－」（代表，東北大学 今村文彦）の成果の一部を取りまとめたものである．

キーワード: 慶長豊後地震, 津波, 別府湾, 津波浸水高, 大分
Keywords: the 1596 Keicho Bungo Earthquake, Tsunami, Beppu Bay, tsunami inundation height, Oita